

譜樂撰特

第百四十一編 第百四十二編

獨唱 春の夕べ
本童球漢作歌
シヨパン作曲

二部 池の鯉
西洋名曲
成樂會作歌

合唱 春の小川
井上武士作曲
俣田治朗作歌

少年歌 太平洋
原田比古士作曲
大童球漢作歌

幼歌 若草
井上武士作曲
園井修作歌



原田比古士編
成樂會

濱邊の歌

岡本新市作歌

- 一、あした濱邊をさまよへば
寄する波よ、今日は嵐か
- 二、夕濱邊をさまよへば
星よ月よ、明日は日和か

かもめの歌の淋しさや
我に語れ 海の秘密
千鳥の歌の賑かさ
我に語れ 空の秘密

◎新春音樂會用歌曲 (全部伴奏附) 會費(送料共)

中等程度

- 春こそ来れ(二部)(三) 四季(二部)(三) 御國の眺め(三部)(三)
- 御寺の鐘の音(二部)(三) 思ひ出(二部)(三) 御代の春秋(二部)(三)
- 御代萬歳(二部)(三) 峠を越えて(三部)(三) B A B A(三部)(三)
- 學びの道(人聲伴奏)(三) 樂しき國(齊唱)(三) 夜の歌(二部)(三)
- 卒業式(二部)(三) 君が代(元節)(二部)(三) 春の山路(三部)(三)
- 山の電氣(二部)(三) 里の小川(三部)(三) 幼女の憶ひ出(三部)(三)
- 乙女の歌(獨唱)(三) 願ひ(齊唱)(三) テクテキスマ(獨唱)(三)
- さらば故郷(獨唱)(三) 登る旭(四部)(三) 蝶と小鳥(齊唱)(三)
- 夕まぐれ(二部)(三) 友はいづこ(二部)(三) ふるさと(二部)(三)

小學程度

- 春は来たよ(齊唱)(三) 春風(二部)(三) つくしんぼう(童謡)(三)
- 早 春(獨唱)(三) 蝶々のお家(童謡)(三) かもち(童謡)(三)
- こいぬ(童謡)(三) 鬼ごっこ(童謡)(三) あわて床屋(童謡)(三)
- 父さん戀し(童謡)(三) 草の芽木の芽(童謡)(三) お父さんお母さん(童謡)(三)
- 春の山(獨唱)(三) 椿(齊唱)(三) 桃さく(里齊唱)(三)
- 虹の橋(童謡)(三) 春の濱邊(獨唱)(三) ほちきたま(童謡)(三)
- レールが走る(齊唱)(三) 雪(齊唱)(三) 飛行機(齊唱)(三)
- 宵の港(獨唱)(三)

大特選樂譜新刊名曲

- ▲大正十五年二月號 第二四・二四合同増大編目次(特刊三〇)
- 春の小川(二部合唱歌) □ひなまつり(可愛らしき子供のうた)
- 若草(少年少女のうた) □ソナチネ(元氣あるオーガン獨奏曲)
- ▲春を待つ歌(獨唱及二部合唱) 〓(特刊五〇)

少女樂譜新刊名曲 (送料共一部金十二錢宛)

- 雛の宿(雛祭唱歌會獨唱用) □ 雨の糸
- なでしこ(特選小學唱歌集) 第六集(月號) 目次(會費二十錢)
- 風船玉(低學年向) □ 仲よこ(中學年女兒向)
- 日向ぼっこ(中學年) □ なすのよこ(中高學年)
- 三才女(高學年女二部合唱)

ピアノ獨奏名曲 (すべて括弧内は會費、單位圓)

- 晚鐘(五) ○ ナターローの激戦(三) ○ 憶ひ出(三)
- 君が代(シクスタジアアエーション)(三) ○ 風の曲(三)
- オーガン獨奏名曲在庫品
- 銀波及夜風(四〇) ○ ソナチネ(三〇)

大正十五年一月五日印刷
大正十五年一月十日發行

【非賣品】會員にのみ分配
會費半々年分 一圓二十五錢
學生團體前納 一分七十五錢

編輯兼 原田彦四郎
發行者 成樂會
印刷所 樂譜印刷研究所
右代表者 大橋利康
福岡市大學通り二丁目

發行所 成樂會
靜岡市東鷹匠町五二番
振替名古屋一〇二四八番
東京市外田端三四六番
事務所 中井博士邸内原田

團體特別扱一度乞御照會

春の夕へ

[獨唱]

作曲 犬童球溪
詩作 シヨパン

mf

cresc.

カニの 草として 父として
ニハの 母として 母として
ハの 若草や たのもじき
ホの 秘めつつも

Fine

カニの 草として 父として
ニハの 母として 母として
ハの 若草や たのもじき
ホの 秘めつつも

Tempo 1

チな ヨく ヤと サキキ ンドケ ンノユ フベ ノドケ ンノユ フベ ノドケ ンノユ フベ

cresc. p

リモトハメサトヨヨノケガレシラメサトヨ
リヤミトハメサトヨヨノケガレシラメサトヨ

cresc.

◇若 草 園井修作歌

- 一、春の影を 土の蕪みを 萌初め出でし 草はうつくし
- 二、東風吹く風に 日に色そふ 花咲き實のる 末の榮えを

◇太平洋 犬童球溪作歌

- 一、水天遠く連りて、見さくる極み涯もなし、昇る旭も照る月も、はぐくみ出す太平洋。
- 二、怒濤走りて岩を噛み、白馬駈りて岸を追ふ、未來永劫盡くるなく、寄せては返す太平洋。
- 三、波路東に三千里、さは云へ、やがて朝夕に、空飛ぶ船に跨りつ、往きては復る太平洋。

「はぐくみ出す」太平洋の懷の中で毎日／＼日月星霜を養成して東天に出すこと即海中より日月が昇る意

◇春の小川 傳田治朗作歌

- 一、ゆたげし 春の小川の流れ 岸邊に咲きも亂るゝ花の 影をぞ寫し ゆら／＼と 終日流れ 流れも行くや
- 二、のどけし 春の小川の流れ 小鳥のうたを奏する琴の ひびきに合せ さら／＼と ひれもす流れ 流れも行くや

◇池の鯉 成樂會作歌

- 一、池の鯉 鯉鯉、黒の鯉 マダラ鯉。
- 二、あちらの鯉こちらに、泳いで来い浮いて来い。
- 三、親の鯉 子鯉、早く来いとんで来い。
- 四、大きな鯉小さな鯉、並んで来い従いて来い。
- 五、一緒に来いみんな来い、饑餓に來い食べに來い。

◇春の夕へ 犬童球溪作詩

一、曉月空にかゝり 寺の鐘は遠くひびき 今ぞくるる春の夕べ のどけき里や 浮世の塵も訪はぬ里よ 浮世の汚風知らぬ里よ

二、花のかけ空にのこり 笛のしらべ遠くきこえ 今ぞくるる春の夕へ 静けき里や 悔惱み訪はぬ里よ うさつらさ知らぬ里よ

これにかへてもよろし

大特選樂譜

〔二月一集會費廿五錢、團体十五錢〕

▲第二・四編 □濱邊の歌(獨唱) □み山ざくら(獨唱)

□御國を守れ(ビショップ作曲・三部大合唱)

▲第一・三編 □春の小川(二部合唱) □若草(子供の歌)

□春の夕(獨唱) □池の鯉(子供の二部) □太平洋(少年歌)

▲四月號(一四三編) □花の春(幼年) □若葉(少年)

少年少女樂譜

〔二月一集會費十五錢、團体十錢〕

▲第三編 □籬の宿(少女獨唱用)

▲第三編 □落花 □雨の糸 此編のみ會費十錢、團体七錢

▲第四編 □四月一日發行目下選曲中

鈴蘭樂譜

一ヶ月會費一種八錢宛、團体一種五錢
松竹梅三種にて二十四錢、團体十五錢

▲第一編 □松の巻 吹けよ春風(三部)

□竹の巻 春野の小徑(齊唱) □梅の巻 春日のめぐみ(齊唱)

新教材

〔二月一集會費十錢、團体五錢〕

▲第五集 □かこのうぐいす(低學年) □春が来た(二部)

□だるま(中學年向聯唱) □風船玉(低學年)

▲第六集 □卒業式の歌(卒業生在校生聯唱) □ヒヨコ(幼年)

□村のお房(幼年) □富士山(子供と先生との三部合唱)

□山が火を吐く(高學年男兒二部合唱)

なでしこ

〔年五冊發行、一冊三十錢、團体二十錢〕

▲第六集 □風船玉(低學年) □仲よし(中學年)

□日向ぼつこ(中學年) □なすのよ(高學年) □三才女(二部)

ピアノ獨奏名曲

- 晚鐘(五〇) ○オクターローの激戦(五〇) ○憶ひ出(二〇)
- 君が代シツクスヴァリエーション(一、〇〇) ○嵐の曲(六〇)
- 銀波(オーガン獨奏曲、四〇)



102180
54767.6
157
常置

春の音樂會用合唱曲大物

▲四季 二部合唱西歐名曲(一、三) ▲御國の眺め 三部合唱

西歐名曲(一、三) ▲春こそ来れ 二部合唱西歐名曲(一、三)

▲友はいつこ 二部合唱西歐名曲(一、三) ▲B A B a 三部

合唱西歐名曲(一、三)

文檢東音受驗參考成樂會特別發行物

△聽音新曲二百題(一、七〇送、〇四)

△大正十四年各科入學試驗問題集及準備法(一、三〇)

學校音樂

▲第一五號 ○純正發聲について ○中聲發聲指導法の實際

○兒童唱歌發聲關西視察報告 ○發聲指導法の後に

樂典要所

(送共、三) 新制音樂理論抜粹

大正十五年二月十日印刷
大正十五年二月十五日發行

【非賣品】會員にのみ分配
會費半々年分一圓二十五錢
學生團体前納一人分七十五錢

編輯兼 原田彦四郎
發行者 樂譜印刷研究所
印刷所 右代表者 大橋利康
福岡市大學通り二丁目

發行所 成樂會
靜岡市東憲匠町五二番
振替名古屋一〇二四八番

東京 東京市外田端三四六
事務所 中井博士邸内原田
團体特別扱一度乞御照會